

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2673000127
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷
所在地	〒617-0853 京都府長岡京市奥海印寺三反畑8-1 (電話) 075-958-6581

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅湊町83-1 ひと・まち交流館 京都		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年7月27日

## 【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	24 人
職員数	29 人	常勤	18 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 17 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造りスレート葺耐火建築		
	3 階建ての	1 階～	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50000円～ 80000円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( ) / ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有		有りの場合 償却の有無	
	無	有/○無		
食材料費	朝食	260 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	150 円
	1日 1810円			

### (4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	24 名	男性	1 名	女性	23 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	9 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会京都府病院、新河端病院、上田内科医院、中島整形外科医院、中村歯科医院
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三菱電機ライフサービス株式会社は1964年に立ち上げられ、不動産、フードサービスなどの事業を行っている。介護事業は全国に展開されており、当ホームにとって組織構成や研修体系などの面で法人のバックアップ力が大きい。ホームは長岡天満宮の西側で、近くに小学校や寺がある住宅街にあり、社員寮の改築である。できるだけ家庭的なやわらかい設えにしようと、内装の色、引き戸や居室の表示等、さまざまな工夫がなされている。開設5年が経過し、長岡京市や地域との良好な関係が築かれている。家族は面会も多く、運営への協力もあり、ボランティアの出入りも多い。管理者は経験が豊かで認知症への理解が深く、職員の若い世代と中年世代のそれぞれにある長所を引き出すことにリーダーシップを発揮している。毎日可能な入浴、パットに頼らない排泄介助、野菜の豊富な食事、遠出もふくめた外出など、日常生活のケアにくわえて個別レクリエーションや利用者の能力を引き出すリハビリテーションなど、事業所としての総合的な介護の力は高い。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で指摘された点について、苦情受付窓口の表示と家族会の発足は改善され、生活歴を反映した介護計画の作成にも取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の受審にあたってユニット会議で全職員が自己評価に取り組んでいる。各項目とも非常に具体的に書かれ、ユニットの違いも明記され、職員の思いが表れている。注目に値する自己評価票となっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーは長岡京市高齢介護課課長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域住民、地域の特養施設長、家族等で構成され、おおむね2カ月に1回開催され、記録が残されている。「安全のために門に鍵をつけてはどうか」という慎重な意見にたいしては見守りに対応することを回答し、家族の「いつまでここにいられるのか」という不安にたいしては医療連携などで対応すると回答している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を年1回開催しており、さまざまな意見がだされている。ハード面の希望が多いが、借家なので、大家さんの許可がないと改築できないという悩みを抱えている。危険防止の不安から、機能的で最新式のドアに取り替える要望があるがコスト面でむずかしく、理解してもらっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域の運動会、神社の祭りなどに利用者が参加している。近くの高校の学園祭、運動会、文化祭なども見に行っている。地域住民のボランティアが多数きてくれており、書道、絵、民謡、コーラス、ハモニカ演奏などを利用者にも教えてもらっている。美容師さんがボランティアでカットやお化粧をしてくれる。グループホームが夏祭りをしたときは大勢の地域の人に来てくれた。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「①個人の尊厳を大切に ②画一性・おしつけを排除 ③地域社会との融合を図る」の3点が決められており、事業計画書に明記されている。この理念は開設以来のものである。パンフレットや重要事項説明書等には違う表現で書かれている。	○	法人の理念をふまえて、グループホーム西山の郷としての独自の理念を、職員の話しあいにより作成するとともに、パンフレットや重要事項説明書等にもわかりやすく明記することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常に職員とともに理念をどのように業務に実践するかを話し合っている。押し付けをせず、その人らしく暮らしていけるように、共同で楽しめるような趣味の支援、みんなですることはいやな人にはその人なりの楽しみの支援などに心がけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の運動会、神社の祭りなどに利用者が参加している。近くの高校の学園祭、運動会、文化祭なども見に行っている。地域住民のボランティアが多数きてくれており、書道、絵、民謡、コーラス、ハモニカ演奏などを利用者に教えてもらっている。美容師さんがボランティアでカットやお化粧してくれる。グループホームが夏祭りをしたときは大勢の地域の人に来てくれた。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の受審にあたってユニット会議で全職員が自己評価に取り組んでいる。各項目とも非常に具体的に書かれ、ユニットの違いも明記され、職員の思いが表れている。注目に値する自己評価票となっている。前回の評価で指摘された点について、苦情受付窓口の表示と家族会の発足は改善され、生活歴を反映した介護計画の作成にも取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは長岡京市高齢介護課課長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域住民、地域の特養施設長、家族等で構成され、おおむね2カ月に1回開催され、記録が残されている。「安全のために門に鍵をつけてはどうか」という慎重な意見にたいしては見守りで対応することを回答し、家族の「いつまでここにいられるのか」という不安にたいしては医療連携などで対応すると回答している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長岡京市高齢介護課課長が担当で、日常的に相談している。長岡京市の各関係団体が認知症に関する講演を開催したとき、講師として協力したり、認知症の長岡京市やすらぎ支援員の実習を受け入れるなどの協力をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とは面会時に情報交換している。面会の多い人は週1、2回、少ない人でも年4回くらいは来られている。金銭管理は毎月個別に報告しており、職員異動は2カ月に1回発行されている広報誌『西山の郷』で報告している。行事のときなどに撮った写真は利用者の居室に貼って、家族に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回開催しており、さまざまな意見がだされている。ハード面の希望が多いが、借家なので、大家さんの許可がないと改築できないという悩みを抱えている。危険防止の不安から、機能的で最新式のドアに取り替える要望があるがコスト面でむずかしく、理解してもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としてはグループホームの職員と利用者の「馴染みの関係」を重視し、異動は基本的には行わないという方針をもっている。離職を防ぐためには魅力ある職場づくりをめざしており、職員の気持ちがひとつになるように各ユニットごとに工夫されている。ユニットリーダーは親睦会をしたり、話をよく聞くように心がけており、シフトの工夫もしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員への研修計画は介護保険、グループホームとは、高齢者医療、リハビリテーション、レクリエーション、接遇、調理・献立などのテーマで実施されている。外部研修に関しては情報を提供し、自発的な申し出を重視している。レポートが残され、伝達研修が行われている。資格取得についても支援されており、取得すれば手当てがつく。一人ひとりの職員の課題についても管理者との話し合いで目標が設定され、支援されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、管理者や職員は交流や研修に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	試し入居に対応している。利用開始になっても、半日⇒1日⇒泊まりというように、時間を延ばして対応するなどの取り組みもしている。また、なるべく早くなじんでもらうために、家族と一緒に部屋をセッティングしたり、職員は話をよく聞くことや、利用者のしたいことを聞き出すように工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者支えあいながら生きていく関係と考えており、人生の大先輩から多くのことを学んでいる。散歩しているときに、クリスチャンの利用者から「野の花に心をそそぎなさい」と教わったり、モノの再利用が上手な人から生活の知恵を学んだりしている。利用者の話は感動することが多いと感じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申込があると管理者とユニットリーダーが訪問面接し、アセスメントが行われ、介護計画が作成される。簡単な生活歴と生活状況、趣味・嗜好、その他の情報が収集されている。できること、できないこと、好きなことなど、具体的に聴取されている。	○	利用者の個別ケアに取り組むために、日常のケアのなかで聞き取った利用者の生活歴の情報をなるべく詳細に記録して残すことが期待される。
<b>2. 本人がよりよく暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向とアセスメントに基づいて、ユニットリーダーが介護計画を立て、職員が確認している。できること、できないこと、好きなことをもとに、できるだけポジティブプランを立てたいとしており、具体的な介護計画になっている。	○	介護計画はさまざまな人の意見やアイデアを取り入れることが、利用者の生活をつくっていくための豊かな介護計画につながると思われるので、ケース会議には利用者や家族に参加してもらうことも期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングはユニット会議で毎月おこない、新たなアセスメントののち介護計画の見直しをしている。モニタリングの根拠となるのは毎日の支援経過であるが、記録には会話、観察などが記されており、介護計画の項目にそって書かれていない。	○	支援経過記録は、介護計画の項目にそって、利用者の表情、会話、職員の観察と考察が記録されることと、職員によるばらつきがなるべくないように工夫することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居宅介護支援事業所と訪問介護事業所が併設されており、対応している。かかりつけ医への受診同行や、ボランティアの美容師さんが来てくれたり、行きつけの美容院や理容院への同行もしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が2週間に1回あり、医師との24時間オンコール体制もできている。受診の際の情報交換は毎日のバイタルチェック表または『在宅療養手帳』により行っている。認知症専門医との連携もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族は最期までみてほしいという思いのある人が多く、管理者はじめ職員も最期までお世話したいという気持ちが強いことをふまえて、ターミナルケアの方針「ガイドライン」が明文化されている。医師の協力もあり、家族からは同意書をもらっている。		
<b>回</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーには十分注意している。利用者の話をもらさないこと、過去にあったことを利用者の前で話をしないことなど、常にふりかえりをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしは利用者のペースでおこなわれ、職員のおしつけはない。入浴ぎらいの人にも根気よく対応している。利用者の行動から気持ちを察するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士が立てており、食材も発注されるが、実際に何をつくるかは、利用者の希望やその日の気分で決められ、ユニットごとに献立は異なっている。お弁当を買ってくることもあり、外食は毎月行っている。鍋料理をすることもあり、ケーキやホットケーキなどのおやつの手作りもある。食事は職員も共に食べながら、会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日でも入浴の支援をしている。マンツーマンの同性介助である。また自立している人は夜間の入浴ができるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝い、配膳、後片付け、掃除、洗濯物たたみ等の役割が果たされている。また編み物、書道、絵、コーラス等の楽しみが支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のように散歩や買い物に出かけている。外出嫌いの人にもなるべく外へ出てもらうように働きかけている。花見、もみじ狩り、れんげやコスモスを見に行く、みかん園へお弁当をもって出かけるなどの遠出も楽しんでいる。近くの河川敷でバーベキューをすることもある。利用者の思い出の場所への個別外出としてはミンガンに乗りたいとか、お墓参りなどの希望に対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路に面した門扉や玄関ドアは施錠されていない。徘徊の可能性について、常にスタッフで検討し、見守りで対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画はあり、消火器、感知器、通報機、防火管理者の設置は行われている。避難訓練は夜間想定もふくめて行われている。水等の備蓄を準備している。地震対策としてタンスが倒れない処理をしている。万一来て地域住民の協力要請も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録されているが、水分摂取量は医師の指示のある利用者について記録されている。		
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前の庭にはプランターに花が植えられ。お天気の良い日にはここで利用者がお茶をする。居間兼食堂には食卓の他に座りやすいソファや椅子がおかれ、本棚には本、壁には利用者の作品や写真が飾られている。3階は大きな窓からいっぱい陽がさしこみ、花の鉢が所狭しと並べられている。各階のユニットごとに職員が工夫して、居心地の良さをづくりだしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の部屋は椅子、机、たんす、衣装かけ、仏壇、ホームコタツ、オルガン、家族の写真、大きな花の額等々、それぞれが使い慣れた家具や道具を持ち込んでおり、個性的である。化粧道具をもってきている人もいる。		